

サーキュラーエコノミーを創る

日本生産性本部
エコ・マネジメント・センター長
喜多川 和典

◆筆者略歴■長年、行政・企業の環境に関わるリサーチ及びコンサルティングにあたる。上智大学非常勤講師、経済産業省循環経済ビジョン研究会委員（平成30年度～令和元年度）、NEDO技術委員、ISO TC323 Circular Economy 国内委員会委員。著書に『サーキュラーエコノミー 循環経済がビジネスを変える』（勁草書房）等。

目標を定め、自身、政策のこうした舵取りの方向は正しる。ルノーは今のところ、フランスとスペインの展開であるが、注意すべきことは、技術・知財の破壊であり、それはリース・サブスクリプション等による無効化である。その背景には、欧州のCEに關するトレンドの一つであるMaas (Manufacturing as a Service)がある。これは地域分散型の「製造サービス」であり、製品が故障したか、最初のユーザーの手を離れたものについて、利用価値を再生するための再製造、修理などを行う者に対し、それをやり遂げるための技術情報の開示が求められるならば、それに応じなければならぬ。これは企業は、規制として受け止めるのではなく、ビジネスの競争、新たなビジネスモデル開発の機会と捉え、果敢に取り組むべき課題と認識する必要がある。

◆脱炭素優位のCE政 原材料法は、脱炭素への貢献有無に関わらず、資源循環に取り組むべきケースが今後拡大する。EUが新たに制定する目標を掲げている。

EUが新たに制定する目標を掲げている。自動車メーカーが再生材料利用の再生率を30%以上

移動 ころしたなか、ルノーの製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

ら、今後の製造概念が大きく塗り替えられるのではないかとこの予感を感じる。これまで「製造サービス」であり、製品が故障したか、最初のユーザーの手を離れたものについて、利用価値を再生するための再製造、修理など

最近影を潜めているが、かつて温室効果ガスによる地球温暖化に對してそれなりの懐疑論があったものだ。筆

者はそのにくみする考えはないが、気候変動の原因が100%温暖化によるものでないこととは気候学の専門家はだれもが認識している。しかしながら、資源循環経済（CE）の

を一定の割合で含むことを義務付けるものがあるが、これまでは日本や欧州では自動車の再資源化率は95%以上を達成しているが、新車の製造に使用される再生材料は、中古車（他社製品含む）と廃車を投入材とする工場へと生まれ変わる工場とを区別して、このように製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

を一定の割合で含むことを義務付けるものがあるが、これまでは日本や欧州では自動車の再資源化率は95%以上を達成しているが、新車の製造に使用される再生材料は、中古車（他社製品含む）と廃車を投入材とする工場へと生まれ変わる工場とを区別して、このように製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

欧州におけるCE政策の行く先

EUが新たに制定する目標を掲げている。自動車メーカーが再生材料利用の再生率を30%以上

移動 ころしたなか、ルノーの製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

ら、今後の製造概念が大きく塗り替えられるのではないかとこの予感を感じる。これまで「製造サービス」であり、製品が故障したか、最初のユーザーの手を離れたものについて、利用価値を再生するための再製造、修理など

を一定の割合で含むことを義務付けるものがあるが、これまでは日本や欧州では自動車の再資源化率は95%以上を達成しているが、新車の製造に使用される再生材料は、中古車（他社製品含む）と廃車を投入材とする工場へと生まれ変わる工場とを区別して、このように製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

EUが新たに制定する目標を掲げている。自動車メーカーが再生材料利用の再生率を30%以上

移動 ころしたなか、ルノーの製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

ら、今後の製造概念が大きく塗り替えられるのではないかとこの予感を感じる。これまで「製造サービス」であり、製品が故障したか、最初のユーザーの手を離れたものについて、利用価値を再生するための再製造、修理など

を一定の割合で含むことを義務付けるものがあるが、これまでは日本や欧州では自動車の再資源化率は95%以上を達成しているが、新車の製造に使用される再生材料は、中古車（他社製品含む）と廃車を投入材とする工場へと生まれ変わる工場とを区別して、このように製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

EUが新たに制定する目標を掲げている。自動車メーカーが再生材料利用の再生率を30%以上

移動 ころしたなか、ルノーの製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ

ら、今後の製造概念が大きく塗り替えられるのではないかとこの予感を感じる。これまで「製造サービス」であり、製品が故障したか、最初のユーザーの手を離れたものについて、利用価値を再生するための再製造、修理など

を一定の割合で含むことを義務付けるものがあるが、これまでは日本や欧州では自動車の再資源化率は95%以上を達成しているが、新車の製造に使用される再生材料は、中古車（他社製品含む）と廃車を投入材とする工場へと生まれ変わる工場とを区別して、このように製造業の役割は、概してステランティス（プジョー、シトロエ